

科目名		建築設計演習Ⅱ				
担当教員		星野 麻子		実務授業の有無	有	
対象学科		建築デザイン科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択		必修	授業形式	演習	時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方		1年次に学んだ住宅計画演習・製図・建築デザイン実習Ⅰ・建築設計演習Ⅰでの知識を活かして、オリジナルの空間を設計し、申請を行う流れを学びます。グループに分かれ、全てのグループが建築士と建築主の立場を体得します。建築主の思い描く空間をカタチにし、それを実際に建築するための申請作業を学びます。申請に必要な情報を入手する方法も習得します。もちろん、全てにおいて期限は必須ですので、同時に『期限に間に合わせる』を重点的に評価します。				
学習目標 (到達目標)		これまで培ってきた知識と技術を活かし、建築主が思い描くイメージを形にします。その後、図面作成、情報入手、記載事項の確認等、確認申請作業の一連の流れを体得します。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料		配布プリント				
NO.	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考		
1	『確認申請』を理解する ・必要な書類を把握する ・申請までの流れを把握する			確認申請とは何の為に、何をすることなのか。 必要書類や情報、申請までの流れを習得する。		
2	『確認申請』を行う建物を計画する ・建築主となり、住宅の要望を建築主に伝える			まずは建築主の立場で、用意された大まかな課題に、それぞれのグループの色を付けてエスキスを完成させる。イメージが建築士にしっかりと伝えられるような工夫をする。		
3	『確認申請』を行う建物を計画する 課題1 ・建築主の要望に沿った住宅を提案する			次に建築士の立場で、建築主が思い描くエスキスを図面にする。建築主とのコミュニケーションをしっかりと取って、差戻しの無いよう配慮する。		
4	『確認申請』に必要な図面を作成する 課題2 ・必要な図面を把握する ・全ての図面の整合性を意識する			建築主が納得する内容に仕上がったら、必要な全ての図面を作成する。各図面の整合性に特に注意する。		
5	『確認申請』に必要な書類を作成する 課題3 ・書類作成に必要な情報を入手する			新潟市の確認申請書類をベースに、必要事項を記載する。入手しなければいけない情報に関しては、各自で調べるスキルも身に付ける。		
6						
7						
8						
9						
10						
評価方法・成績評価基準				履修上の注意		
課題1 20 %	課題2 20 %	課題3 40 %	取組姿勢 20 %	就職した際の実務に向けて、設計の流れと内容をしっかりと認識しましょう。何にどれほどの時間を要するのか、足りない知識や技術を習得する方法やプロセスなど、しっかりと把握して進めましょう。全てにおいて期限があります。『仕事内容』をしっかりと認識する必要があります。グループ内での自分の役割をしっかりと把握し、協力して進めていきましょう。		
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
実務経験教員の経歴		住宅設計に11年間従事				